

養護学校との交流を通して相互理解を深める

< 高等学校 >

- 目的
- 養護学校との交流を通して互いに理解を深めあう。
 - ノーマライゼーションについての理解を深める。
 - 地域でともに暮らす生活者としてのつながりをつくる。

気づく

地域の養護学校の存在について知る

- 障害者との交流体験を出し合う。
- 交流する学校の様子を知る。
- 同世代の障害者との交流が大切であることに気づく。

養護学校とビデオレター等で交流する。ボランティア体験等、自分自身の体験を出し合う。

広げる深める

養護学校との交流会を計画する

- レクリエーションやスポーツ、調理、農作業など、みんなが参加できることを考える。
- 事前準備として何が必要かを考える。

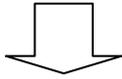
事前に学校間で交流会についての共通理解を持つ。時間帯については両校の教師間で事前の協議が必要。予め作成できるものを考える（紙芝居や折り紙等）

計画する

交流会の持ち方を、互いの学校の生徒間で自主的に計画する

- 互いの生徒会等を通じて数回の検討会を持つ。場所は交互に学校を変えて持つ。
- 互いが楽しめるような取り組み、障害が重い生徒も主体的に参加できる取り組みを考える。
- 両校で当日の役割分担（進行役等）、プログラムを作成する。

障害が重い生徒については、事前に養護学校の教師より説明を聞き、理解を深めておく。両校でペアとなる人を決め、その交流を中心に活動することもできる。



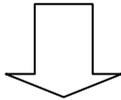
実践する

交流会当日

- ・ 風船バレーボールを楽しむ。
- ・ 陶芸作品を作る。

協力しあえて、成就感・達成感が得られる内容の交流会にする。
それぞれの障害により、適切なサポートが必要となる。事前の知識的理解をふまえ、交流の中で適切なサポートのあり方を身につけていく。

交流会の内容については他にシッティングバレーボール、グランドゴルフ、「王様は誰だ」等、からだを動かす様々なゲームやクリスマスツリー作り、貼り絵、調理活動等考えられる。



振り返る

交流会後、感想発表や意見交流の場を持つ

感想を出し合うことにとどまらず、今後自分たちができる日常的な交流について考える。
日常的な交流を妨げている様々な要因について意見を出し合う。

現代社会等の教科学習、「総合的な学習の時間」等と関連させて、ノーマライゼーションを実現するためのハード面、ソフト面での課題についてまとめ、話し合える機会を持ちたい。



【学習を進めるにあたって】

- ・ 障害のある者となない者とが、地域で協力して生活することの大切さを交流を通して実感する。
- ・ 行事的な取り組みから、継続的・日常的な取り組みにしていくことが重要である。
- ・ サマースクール等、生徒のボランティア活動にも結びつけて考えていくことができる。